

交付運用報告書

スーパーファンド・ブルー・ジャパン

ケイマン籍 オープンエンド契約型 外国投資信託（円建て）

作成対象期間（第8期）：自 2017年1月1日 至 2017年12月31日

～ 受益者の皆様へ ～

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、2018年1月1日付で、外国籍公募投資信託「スーパーファンド・ジャパン」に統合されました。

本交付運用報告書は、2017年1月1日から12月31日までを対象期間とする当ファンドの統合前の運用状況等についてのご報告のために作成されました。

当ファンドは、ケイマン諸島における分別ポートフォリオを運用する適用免除有限責任会社として登録され、投資会社としてのみ活動するマスターファンド及びアンダーライニング・マスターファンドへの投資を通じて、証券市場の動静から独立した投資形態を投資家の皆様に提供するために設立されました。スーパーファンドの投資顧問会社であるスーパーファンド・キャピタル・マネジメント・インクによる、トレーディング・ソフトウェアを使用した最新の取引システムに基づき、マスターファンド及びアンダーライニング・マスターファンドは運用されます。

今後とも、スーパーファンドグループの外国籍公募投資信託への、尚一層のお引立てを賜りますよう、よろしく申し上げます。

	第 8 期 末 (2017年12月31日)	
	円ヘッジ有クラス	ゴールド・クラス
1 口 当 たり 純 資 産 価 額	73.84円	93.18円
純 資 産 総 額	178百万円	430百万円
	第 8 期	
	円ヘッジ有クラス	ゴールド・クラス
騰 落 率	△12.13%	△3.09%
1 口 当 たり 分 配 金 額	0円	0円

(注1) 純資産総額は、1口当たり純資産価額に、当期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書（全体版）に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。

(注2) 騰落率は、税引前の分配金（もしあれば）を分配時に再投資したものとみなして計算しています。以下同じです。

(注3) 1口当たり分配金額（もしあれば）は、税引前の分配金額を記載しています。以下同じです。

その他記載事項

運用報告書（全体版）は代行協会のウェブサイト (<http://www.superfund.co.jp>) にて電磁的方法にて提供しており、「資料ダウンロード」において閲覧及びダウンロードすることができます。

※ 当ファンドの運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

【管理会社】

【代行協会員】

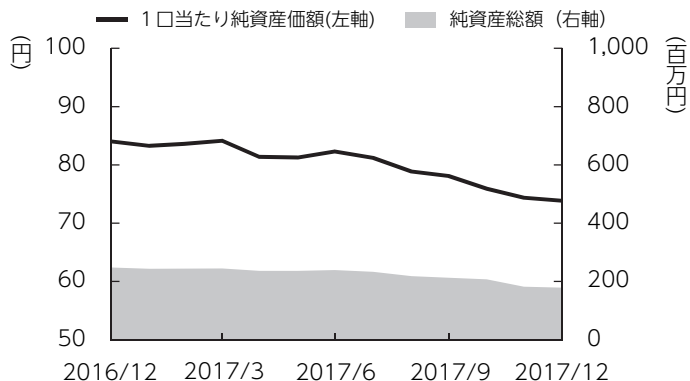
スーパーファンド・ジャパン・
トレーディング（ケイマン）リミテッド

スーパーファンド・ジャパン株式会社

運用経過

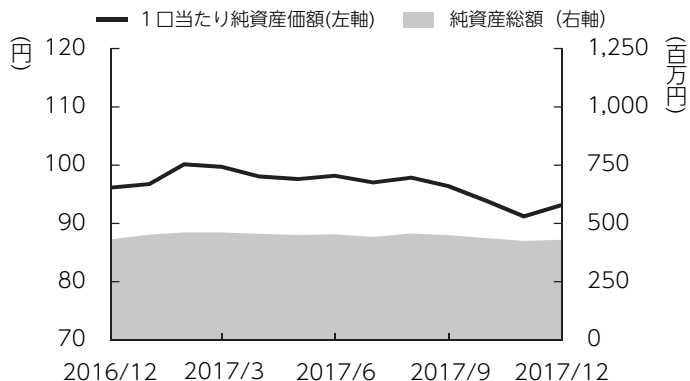
■ 当期の1口当たり純資産価額等の推移について (2017年1月1日～2017年12月31日)

円ヘッジ有クラス



第7期末の 1口当たり純資産価額	84.03円
第8期末の 1口当たり純資産価額 (分配金0円)	73.84円
騰落率	△12.13%

ゴールド・クラス



第7期末の 1口当たり純資産価額	96.15円
第8期末の 1口当たり純資産価額 (分配金0円)	93.18円
騰落率	△3.09%

(注1) 当ファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 1口当たり純資産価額は、第7期末の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。

(注3) サブファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注4) サブファンドにベンチマークは設定されておりません。

■ 1口当たり純資産価額の主な変動要因

【円ヘッジ有クラス】

世界の主要な株式市場に上場される流動性の高い株式を買い建てるとともに、当該銘柄が上場された市場に関連する株価指数先物を同金額売り建てます。市場全般（株価指数）のパフォーマンスを上回る個別銘柄が選択されたときキャピタルゲインが生まれ、下回る銘柄が選択されたときにキャピタルロスが生まれます。

【ゴールド・クラス】

世界の主要な株式市場に上場される流動性の高い株式を買い建てるとともに、当該銘柄が上場された市場に関連する株価指数先物を同金額売り建てます。市場全般（株価指数）のパフォーマンスを上回る個別銘柄が選択されたときキャピタルゲインが生まれ、下回る銘柄が選択されたときにキャピタルロスが生まれます。加えて、円建て金価格の上昇によりキャピタルゲインが、下落によりキャピタルロスが生まれます。

■ 費用の明細（2017年1月1日～2017年12月31日）

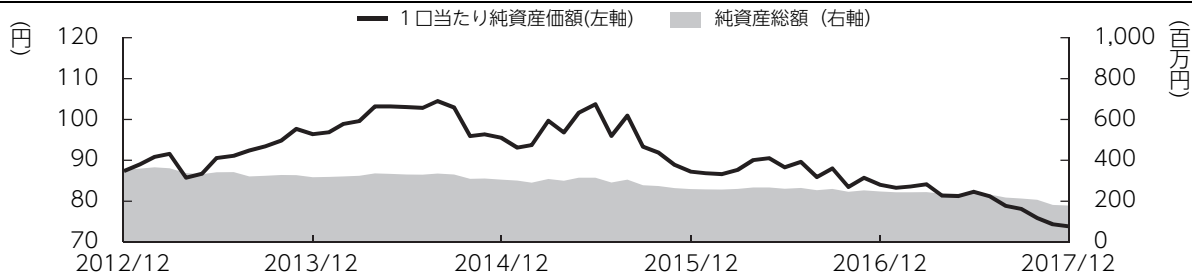
項目		比率又は金額	項目の概要
管理会社報酬		純資産価額の年率0.10%	受託会社、事務管理会社及びカストディアンその他の者との間のやりとり、当ファンドの活動に関連する契約の管理、申込み及び償還を含む投資活動の運用管理の対価
代行協会員報酬		純資産価額の年率0.10%	日本の法令及び日本証券業協会の規則に従い、受益者への目論見書や財務書類を送付し、純資産価額を公表する等の業務に対する報酬
受託会社報酬		年間12,000米ドル	信託証書に従って行う当ファンドの受託業務に対する報酬
事務管理報酬	当ファンドの事務管理及び振替代行報酬	年間9,600米ドル	各評価日における純資産価額の計算、受益権者名簿の管理、締結された申込みに係る契約及び申込みの受領並びに処理、電磁的方法による受益証券の発行証明及び保有報告書の作成並びに送付などの役務の対価
	年次報告書及び監査手配報酬	年間400米ドル	関連する規制に則した年次財務諸表（監査済み）の作成及びその補助の対価
	主たる事務所の提供報酬	年間6,000米ドル	ケイマン諸島ミューチュアル・ファンド法の第4（1）（b）項に規定される、当ファンドの主たる事務所として行為することに対する報酬。事務管理会社の関連会社に支払われる。
その他の費用（当期）		1.33%	監査費用、保管費用、その他信託事務の処理に要する諸費用

(注1) 各報酬については、目論見書に定められている料率又は金額を記しています。「その他の費用（当期）」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、当期のその他の費用の金額を当ファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

(注2) 各項目の費用は、サブファンドが組み入れている投資先ファンドの費用を含みません。

■ 最近5年間の1口当たり純資産価額等の推移について (2012年12月31日～2017年12月31日)

円ヘッジ有クラス



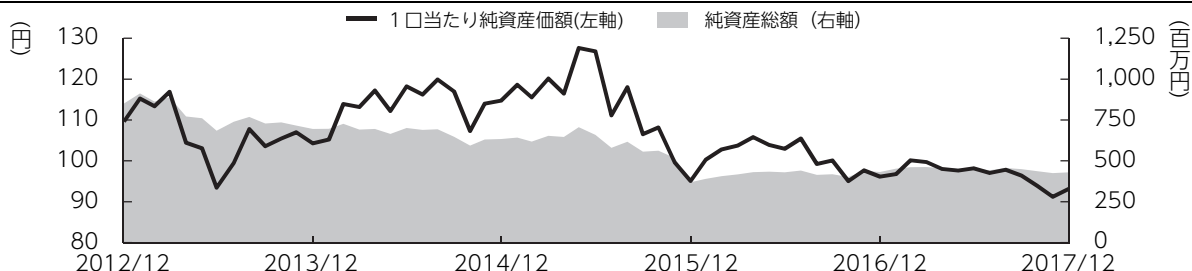
	第3期末 2012年 12月31日	第4期末 2013年 12月31日	第5期末 2014年 12月31日	第6期末 2015年 12月31日	第7期末 2016年 12月31日	第8期末 2017年 12月31日
1口当たり純資産価額(円)	87.34	96.41	95.52	87.25	84.03	73.84
1口当たり分配金額(円)	0	0	0	0	0	0
騰落率(%)	-	10.38	△0.92	△8.66	△3.69	△12.13
純資産総額(百万円)	354	317	305	259	248	178

(注1) 1口当たり純資産価額は、第3期末の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。なお、当ファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 純資産総額は、1口当たり純資産価額に、各期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書(全体版)に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。

(注3) サブファンドにベンチマーク及び参考指数は設定されていません。

ゴールド・クラス



	第3期末 2012年 12月31日	第4期末 2013年 12月31日	第5期末 2014年 12月31日	第6期末 2015年 12月31日	第7期末 2016年 12月31日	第8期末 2017年 12月31日
1口当たり純資産価額(円)	109.61	104.27	114.75	95.10	96.15	93.18
1口当たり分配金額(円)	0	0	0	0	0	0
騰落率(%)	-	△4.87	10.05	△17.12	1.10	△3.09
純資産総額(百万円)	851	695	633	370	432	430

(注1) 1口当たり純資産価額は、第3期末の1口当たり純資産価額を起点として計算しています。なお、当ファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 純資産総額は、1口当たり純資産価額に、各期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書(全体版)に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。

(注3) サブファンドにベンチマーク及び参考指数は設定されていません。

■ 投資環境について

当期（2017年1月～2017年12月）における世界経済は、当初先行きが不透明な見通しだった割に、堅調な年であったことが判明しました。英国EU離脱のユーロ圏への影響、中国の成長鈍化、米トランプ大統領の不確実性など懸念材料に事欠かなかった年でした。実際には、米国では、失業率と製造業における強い基礎データが、米国経済が通貨政策の変化に対して熟していることを示すシグナルとなりました。米国GDPは第2四半期と第3四半期において年率3%を上回る成長を示し、連邦準備制度理事会（FRB）は明確な経済状況の進展に基づき3度の利上げを行いました。米国の投資家は堅調な企業業績報告を受け、DJIA、S&P500、NASDAQ指数は過去最高値をつけました。その後、マーケットは企業のバランスシートの改善をもたらす米トランプ大統領の新税制改革を歓迎しました。しかしながら、米ドルは10年ぶりの低水準まで下がり、金価格が上昇しました。世界経済全体に渡る成長はFDI（海外直接投資）活動の増加により、発展途上国を含む世界中のほとんどの地域で連動し統合された動きを示すことになりました。欧州全体でも消費者及び企業の信頼感が著しく向上したことで経済成長の上昇が明確となりました。2009年以降で失業率が最低水準に低下し、製造業とサービス業の両方で活動が活発化しました。各国で行われた多くの選挙が経済界の現状と結束を脅かしましたが、反ユーロ圏支持政党の多くが選挙民によって封じ込められる結果となりました。英国EU離脱によるポンド通貨下落は国際展開するFTSE100企業の弾力性を押し上げる結果となりました。実際、独、仏、伊、そして英国の株価は二桁プラスのリターンを示しました。アジアでは、北朝鮮の金正恩委員長と米トランプ大統領の間で頻繁に交わされる口撃により時折市場が動揺しましたが、韓国と日本の株式市場は共に20%程上昇しそれらの雑音を払拭しました。一方、中国政府は、過剰借入金の増加を抑制し、政策義務を果たすことで財務リスクを抑制しようとしてきました。その結果、中国の債権市場は打撃を受けましたが、健全な製造業の業績と主要商品の過剰生産を抑制する積極的な施策のなかで、経済は引き続き活発であり、価格引上げと企業収益をもたらしました。2017年は全体としてボラティリティーが停滞し、幅広い堅実な成長が世界中で勢いを増し、大不況後の多くの非慣習的な金融政策の終結の始まりを示す年であったといえます。当ファンドが採用するマーケットニュートラル戦略は、個別銘柄の買い建てと株価指数の売り建てを同時に行う両建て取引であります。株価指数が先行して上昇する株式市場の動向に、トレーディングシステムにより選定された個別銘柄が指数をアウトパフォームできない局面が散見され、結果的に年間を通して共通ポートフォリオの騰落率はマイナスとなりました。年初1オンス当たり1,150米ドル前後であった金価格は、9月には1,350米ドルまで上昇しましたが、年末には1,300米ドル前後まで調整し、一年を通して金価格は若干のプラスという結果でした。

■ ポートフォリオについて

< 当ファンド >

サブファンドは、マスターファンドへの投資によって当該マスターファンドと同一の投資目的を追求しました。結果、マスターファンドへの投資比率は、概ね95%以上を維持しました。

< マスターファンド >

マスターファンドは、アンダーライニング・マスターファンドへの投資によって、当該アンダーライング・マスターファンドと同一の投資目的を追求しました。

< アンダーライニング・マスターファンド >

アンダーライニング・マスターファンドは、世界各国の取引所に上場されている主要銘柄及び関連する指数先物に投資しました。マーケットニュートラル戦略を採用したブルーは、主要な個別銘柄を買い建て、同金額の関連する株価指数先物の売り建てを行います。

株価指数が先行して上昇する株式市場の動向に、トレーディングシステムにより選定された個別銘柄が指数をアウトパフォームできない局面が散見され、結果的に年間を通して共通ポートフォリオの騰落率はマイナスとなりました。

金価格は、年初1オンス当たり1,150米ドル前後の水準から9月には1,350米ドルまで上昇しましたが、年末には1,300米ドル前後まで調整し、一年を通して金価格は若干のプラスという結果でした。

■ ベンチマークとの差異について

当ファンドにはベンチマーク及び参考指数はありません。

■ 分配金について

当ファンドには分配金はありません。

今後の運用方針

当ファンドは、2018年1月1日付で外国籍公募投資信託「スーパーファンド・ジャパン」へ統合され当ファンドの各クラスは対応する「スーパーファンド・ジャパン」の同一の投資目的を追求する各クラスに統合されましたが、「スーパーファンド・ジャパン」は当ファンドのこれまでの運用方針と同様の戦略によって運用されるマスターファンドへの投資によって、引き続き同様の投資目的を追求します。

お知らせ

上述のように、当ファンドは2018年1月1日付で外国籍公募投資信託「スーパーファンド・ジャパン」へ統合され、信託の運用が終了しましたので、本運用報告書を最後に当ファンドの運用報告書の作成を終了します。

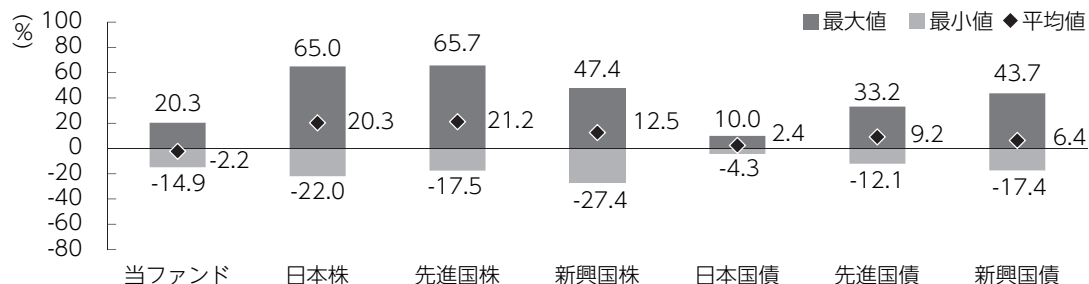
当ファンドの概要

ファンド形態	ケイマン籍 オープンエンド契約型 外国投資信託（円建て）	
信託期間	信託設定日は2010年7月7日、償還日は設定日から150年後	
運用方針	アンダーライニング・マスターファンドの投資顧問会社が随時選定するテクニカル分析ソフトウェアを使用したトレーディング・シグナルに基づいて運用されます。当ファンドのマスターファンド及び、アンダーライニング・マスターファンドは、投資機会及び最新の取引戦略を利用することを目的とするため、将来の投資の特性に関して事前決定された展望を持たず、一切の制限も受けません。アンダーライニング・マスターファンド投資顧問会社は、アンダーライニング・マスターファンドのサブファンドが、上場先物取引及び各種店頭デリバティブ（外国為替取引を含みます。）において過度の危険を冒さずにレバレッジ効果により高い収益が見込めると判断したときに、レバレッジを利用することができます。	
主要投資対象	当ファンド	スーパーファンド・ブルー・SPCのサブファンドであるスーパーファンド・ブルー分別ポートフォリオⅠの利益参加シェア
	マスターファンド	スーパーファンド・ブルー・マスターSPC及び現金、債券、短期金融商品等
	アンダーライニング・マスターファンド	世界の主要株式市場に上場された流動性の高い個別銘柄、及びそれらの株式市場に関連する株価指数先物及び、これに加えて、ゴールドクラスは金先物。
組入制限	当ファンドの資産は管理会社により運用され、管理会社は当該ファンドの資産の最大100%をスーパーファンド・ブルーSPC（マスターファンド）のサブファンドであるスーパーファンド・ブルー分別ポートフォリオⅠの利益参加シェアに投資します。	
分配方針	現段階では分配を行う予定はありません。但し、管理会社はその裁量で分配を決定する権利を留保しています。	

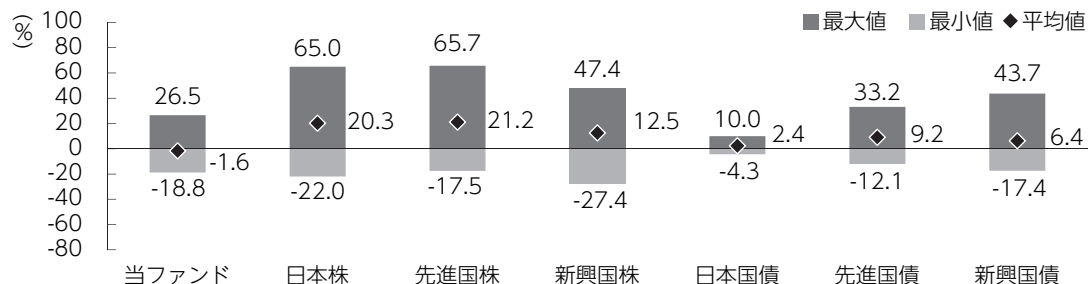
(参考情報)

ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

円ヘッジ有クラス



ゴールド・クラス



※ 全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※ 2013年1月から2017年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値をファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

※ ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算されており、実際の1口当たり純資産価格に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

○各資産クラスの指数

日本株 …… 東証株価指数 (TOPIX) (配当込)

先進国株 …… MSCI-KOKUSAI指数 (配当込) (円ベース)

新興国株 …… MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込) (円ベース)

日本国債 …… JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (日本) (円ベース)

先進国債 …… JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (除く日本) (円ベース)

新興国債 …… JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド

注記・備考

※新興国債の指数は、各月末時点の為替レートにより円換算しています。

ファンドデータ

■ 当ファンドの組入資産の内容 (2017年12月31日現在)

■ サブファンドI

【組入ファンド】 (組入銘柄数：1 銘柄)

資産の種類	組入比率
スーパーファンド・ブルーSPCのクラスB利益参加シェア (以下「ブルーSPCの株式」と表記)	99.70%
現金、受取債権及びその他の資産	0.30%

(注) 組入比率は純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合です。以下円グラフも同様です。



(注1) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

(注2) 組入資産の内容は、当ファンドの事務管理会社より入手した2017年12月31日における計算書類の記載によります。

■ 純資産等 (2017年12月31日現在)

項目	第8期末
純資産総額	608,066,180円
発行済口数	7,027,251口
1口当たり純資産価額	86.53円

(注1) 純資産総額、発行済口数及び一口当たり純資産価額は、当ファンドの事務管理会社より入手した2017年12月31日における計算書類の記載によります。

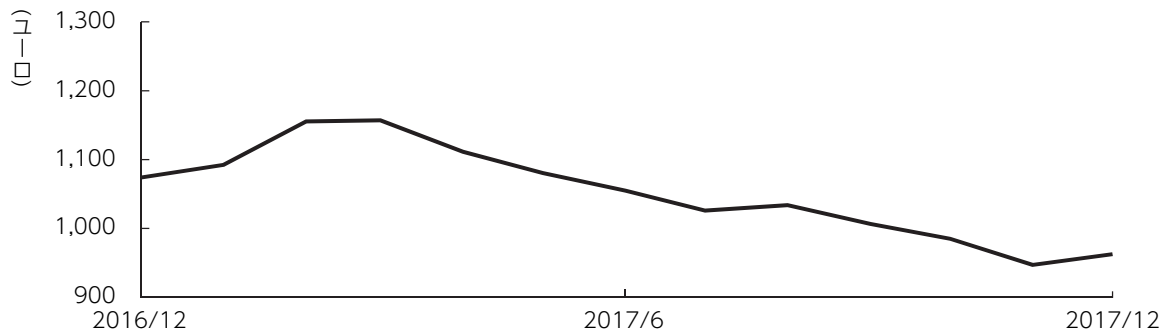
(注2) 当期中における追加発行元本額は35,300,000円、解約元本額は673,403,895円です。

■ 投資先ファンドの概要 (2017年1月1日～2017年12月31日)

■ スーパーファンド・ブルーSPC (マスターファンド)

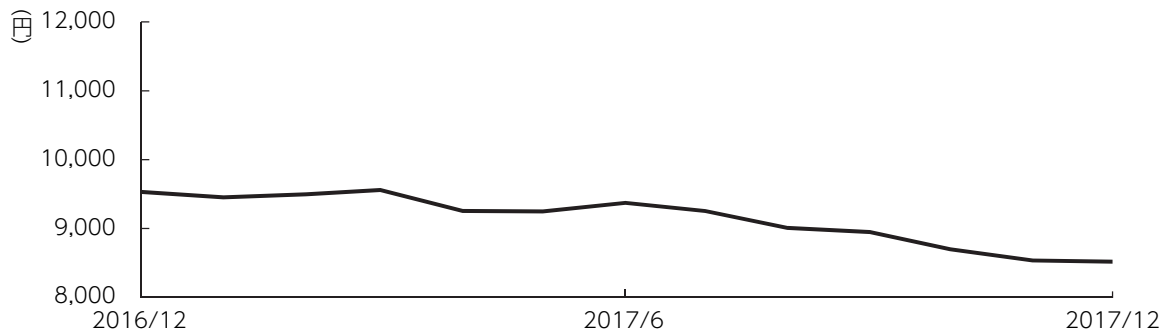
スーパーファンド・ブルーSPC 分別ポートフォリオI クラスBゴールド (ユーロ)

【1口当たり純資産価額の推移】



スーパーファンド・ブルーSPC 分別ポートフォリオI クラスB (円)

【1口当たり純資産価額の推移】



【費用の明細】 (2017年1月1日～2017年12月31日)

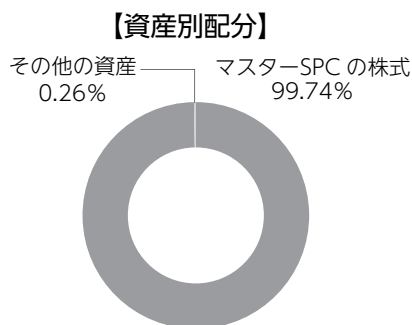
項目	項目の概要	
管理報酬	クラスB (円) 利益参加シェア及びクラスB (ゴールド) 利益参加シェアの純資産価額の年率1.0%	
成功報酬	クラスB (円) 利益参加シェア及びクラスB (ゴールド) 利益参加シェアの純資産価額の純資産価額の増加額のうち30% (金価格の上昇のみに起因する価額増加を排除したハイウォーターマーク方式を適用)	
販売会社報酬	販売会社が申込みを取り扱った受益証券の純資産価額の年率1.0%	
事務管理報酬	事務管理及び振替代行等報酬	年間14,400米ドル
	年次報告書及び監査手配報酬	年間400米ドル
	マスターファンドの主たる事務所の提供報酬	マスターファンドにつき年間6,000米ドル
	登録事務所料	年間1,400米ドル (事務管理会社の関連会社に支払われる)
その他の費用	監査報酬、保管費用、その他信託事務の処理に要する諸費用 0.29%	

(注) 各報酬については、目論見書に定められている料率又は金額を記しています。「その他費用」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、上記期間のその他の費用の金額を投資先ファンドの上記期間末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

【組入ファンド】

資産の種類	組入比率
スーパーファンド・ブルー・マスターSPCの株式 (以下「マスターSPCの株式」と表記)	99.74%
現金、受取債権及びその他の資産	0.26%

(注) 組入比率は純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合です。以下円グラフも同様です。



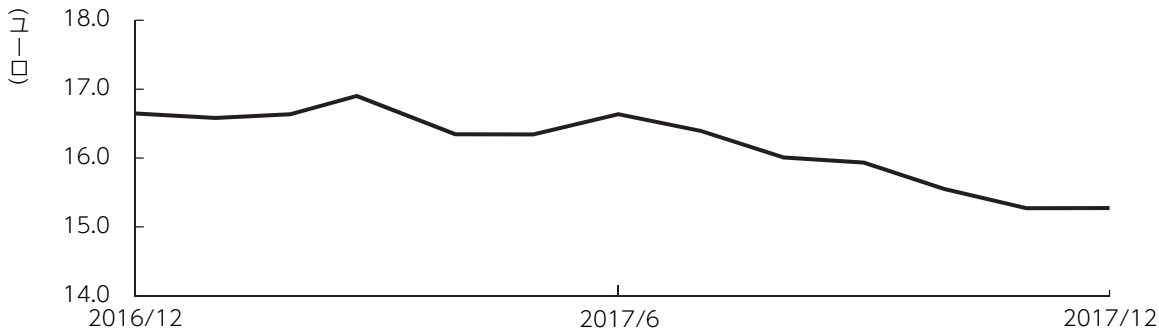
(2017年12月31日現在)

■ 投資先ファンドの概要 (2017年1月1日～2017年12月31日)

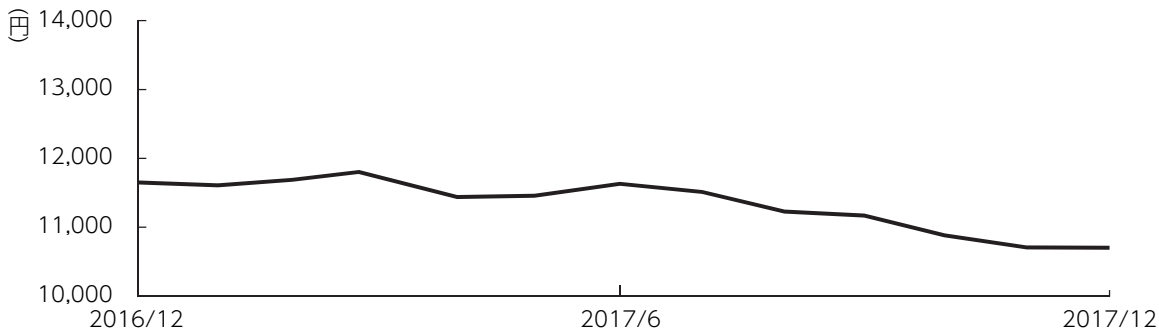
■ スーパーファンド・ブルー・マスターSPC (アンダーライング・マスターファンド)

【1口当たり純資産価額の推移】

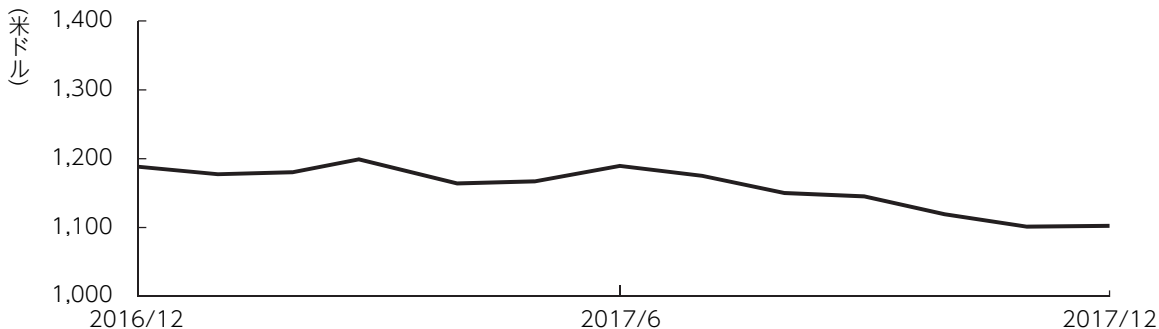
スーパーファンド・ブルー・マスターSPC クラスA (ユーロ)



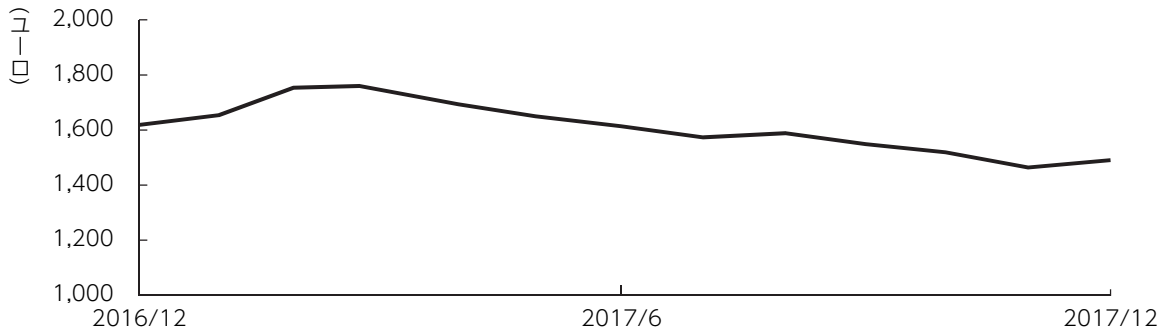
スーパーファンド・ブルー・マスターSPC クラスB (円)



スーパーファンド・ブルー・マスターSPC クラスA (米ドル)



スーパーファンド・ブルー・マスターSPC クラスA (ゴールド)



【保有銘柄情報】 (2017年12月31日現在)

上位保有10銘柄	%
Edison International	2.00%
John Wood Group PLC	1.77%
Big Lots Inc	1.74%
RWE AG	1.73%
Idemitsu Kosan Co Ltd	1.72%
Arris Group Inc	1.68%
EXACT SCIENCES	1.67%
Nektar Therapeutics	1.64%
Sanderson Farms Inc	1.58%
VEEVA SYSTEMS-A	1.50%

(注) 「上位保有10銘柄」は、レバレッジ適用後買いポジションを構成する個別銘柄について、月間取引想定元本の合計値に対する百分率が大きい順に各銘柄を列挙したものです。

【費用の明細】 (2017年1月1日～2017年12月31日)

項目	項目の概要	
事務管理報酬	事務管理及び振替代行等報酬	アンダーライニング・マスターファンドの純資産価額の金額に応じて、純資産価額総額の500万米ドルまでの部分については0.06% (年率)、500万米ドルから1000万米ドルの部分については0.035% (年率)、1000万米ドルを超える部分については0.01% (年率) にそれぞれ相当する金額の合計額。但し、年間30,000米ドルを最低額とする。
	年次報告書及び監査手配報酬	年間2,000米ドル
	登録事務所料	年間1,400米ドル (事務管理会社の関連会社に支払われる)
その他の費用(当期)	監査報酬、保管費用、その他信託事務の処理に要する諸費用 1.69%	

(注) 各報酬については、目論見書に定められている料率又は金額を記しています。「その他の費用(当期)」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、上記期間のその他の費用の金額を投資先ファンドの上記期間末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

【資産別配分】、【国別配分】及び【通貨別配分】については、アンダーライニング・マスターファンドが、世界の主要先物市場における先物を中心に運用しており、オン・バランス資産のほとんどは証拠金であり、その配分は随時変動していることから、一定の時点におけるこれらの情報を開示することに大きな意味がないため、開示しておりません。

(2017年12月31日現在)